

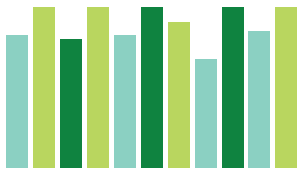


RUNNER

* 目次

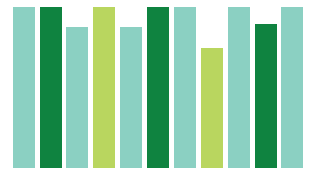
- ★活動の現場 p2~4
- ★齊藤慶輔先生神奈川に来る～ p5~9
- ★傷病鳥獣保護連絡協議会 p10~11
- ★アフラコウモリ飼育記 p12~15
- ★徒然ボランティア日記 p16
- ★足環プロジェクト p17
- ★インフォメーション p18





活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



東京農業大学バイオセラピー学科、学生の傷病舎見学 報告

救護の会に東京農大の学生から会の活動と傷病舎の見学をしたいと要望があり8月26日に15名の案内をしました。

始めにパワーポイントを使って会の活動状況やセンターの役割等を20分ほど見ていただきその後、傷病舎に移動して実際に保護されている動物たちを見学してもらいました。

普段身近では見れない鳥などもいて皆さん熱心に見学していました。ツバメ達がたくさん保護されているのを放野できますかと心配そうに尋ねる女子生徒やトビの多さにびっくりしていました。皆傷を負って保護されてる動物たちを見ている質問も飛び交いかなり興奮気味でした。最後はもう一度部屋に戻り質問や皆さんの意見を聞いて見学を終了しました。その後学生たちは七沢でバーベキューを予約していると遊びの方もしっかりと楽しんでいました。

感想の一部です。

* 傷病動物を初めて見学して、様々な種類がいろいろな理由で保護されていることに驚きました。

* 疥癬のダニが熱湯に弱い事をはじめて聞きました。

* 自分はボランティア講習を受けましたが、あまりセンターには来ていないので、これからは、もっと来て活動したい。

* 保護された鳥や動物たちが3割の復帰率の低さに驚きました。

* いままで、人間が動物たちの怪我に関わっていることは知らなかったので、驚いた。

* 保護数の多さに驚いたが、もっと沢山の保護施設があると良いと思った。

* バードストライクが多いことに驚いたが、猛禽が多い事も知って驚いた。

* 病気や怪我の鳥や動物たちがかわいそうだが、がんばって、生きようとしていることに感動しました。

* 自分は青森の傷病施設を知っているが、神奈川県傷病施設の充実さに驚いた。

* 何度かセンターには来ているが、来る度に新しい小屋が出来ているので、凄いなと思いました。保護されている動物が成長していることがうれしい。

* 飼い猫が原因で鳥が傷ついたり、人間による原因があることがわかって、自分も気をつけたいと思う。



平成25年度 野生動物救護ボランティア講習会終了式 報告

9月21日、伊勢原市民文化会館小ホールにて平成25年度野生動物救護ボランティア講習会修了式がとりおこなわれました。秋晴れの中、研修を終えた新人ボランティア24名が参加しました。

神奈川県獣医師会 鳥海会長より修了証が授与され、神奈川県自然環境保全センター 濱名自然保護公園 部長より登録書が授与されました。

修了式後は、同会場にて猛禽類医学研究所の代表・獣医師齊藤慶輔先生の特別講演・「野生動物救護とは野生動物救護の理念と目的」が開催されました。齊藤先生の釧路湿原野生生物保護センターを拠点とした活動を写真をまぜて紹介しながら野生動物救護とは、またその理念・目的について講演されました。救護にかかわる私たちに、あらためて救護とは何か、どういう心構えが必要で、それをどう今後活かしていくべきなのか（普及啓発の重要性、予防対策）を考えさせられる内容でした。130名程の参加者からは多くの質問が寄せられ、最後は大きな拍手で会場が包まれました。齊藤先生、大変貴重なご講演ありがとうございました。



神奈川県獣医師会鳥海会長のご挨拶



濱名自然保護公園部部长のご挨拶



修了証授与式



齊藤慶輔先生の講演

秦野市民まつり 報告

11月3日秦野市の運動公園周辺において、市民の日「秦野市民まつり」が開催されました。救護の会も秦野市環境保全課さんよりお誘いをいただきパネル展示などで参加しました。

今年のテーマは「野生動物の現状」～人間の生活の影で犠牲になる野生動物たち～として、3枚のパネルに声なき野生動物たちの苦しみを訴えました。横目で通り抜けようとした人も、特別参加のチョウゲンボウのけいすけくんが、(翼骨折のため、野生復帰不可能個体)野生の世界からのメッセンジャーとして呼びかけているのを見て立ち止まり、いろいろな質問が投げかけられました。

多くの人に来てくれましたが、今回をきっかけに野生動物やそれらを取り巻く環境に興味を持っていただければと願うばかりです。



動物フェスティバル 神奈川2013 in あつぎ 報告

10月14日、「動物フェスティバル 神奈川2013 in あつぎ～未来につなげよう動物の命～」が厚木市文化会館で開催され、当会もパネル展示や物品販売などで参加しました。当日は天候にも恵まれ、小さなお子さんからお年寄りまで大変多くの来場者で賑わいました。

文化会館内では長寿犬・猫の表彰式や様々な講演会、映画上映などが行われ、野外特設会場では盲導犬などのデモンストレーションが行われたり、ふれあい動物園や様々な団体のブースが立ち並び、当会もその中でパネル展示や普及啓発活動を行い、たくさんの方々にお話を聞いていただきました。文化会館内地下の展示場では、自然環境保全センターと共同でパネルの展示と説明を行いました。

また、神奈川県獣医師会様より、当会の長年の野生動物救護活動やボランティアの育成、普及啓発活動の実績が評価され「ハーモナイズ賞」をいただきました。今後もこの賞に恥じないよう、より一層活発に活動しなければとスタッフ一同気持ちを新たにしました。



「ハーモナイズ賞」をいただきました



会場の様子



ジャパンバードフェスティバル 報告

11月2日・3日と千葉県我孫子市にある手賀沼湖畔にて、ジャパンバードフェスティバル2013が開催されました。救護の会は今年で8回目の出展となり、「人間社会との共存で傷つく野生動物たち」テーマにパネル展示を行いました。

2日の初日は天気は今一つで、雨がいつ降ってもおかしくないような状況でした。そのせいか午前中は人の通りが少なく立ち寄ってくれる人もちらほらだったのですが、午後からは、かなりの方が興味を持ってくださり私たちも説明に回る人、グッズを売る人、チラシを配る人と手分けして忙しく時間が過ぎました。ステージからは歌が聞こえてきたり、子供たちのゲームの音が聞こえてきたりかなり周りにもぎやかになってきました。熱心な方が多く、ブースの中の写真を見てあれこれ質問されました。窓ガラスの衝突や釣り糸などの被害の写真を見ている方も多くいました。私たちも少しでも多くの方に現状を知ってもらい、また人間の心がけ次第で動物を事故から守れるという事を知ってもらえるように一生懸命説明しました。



私たちは交代で休憩をとり、他のブースをのぞいて回りましたがどのブースも趣向を凝らしての発表で、中々面白かったです。出店の数が多いので休憩時間内に一つ一つをゆっくり見てはまわれなかったのですが、ゲームを取り入れていたり、お客様が参加しての塗り絵などがありさまざまに工夫されていました。午後は雨も降ってきましたが終わるころにはどうにか止み、3日のために後片付けをして帰途につきました。

3日は、野生復帰のできないツツドリの子ルンバちゃん、メジロのジローくんも参加しました。多くの方が訪れ、ルンバちゃんやジローくんがなぜここにいるのかということに耳をかたむけてくれました。家族連れも多く、お父さんお母さんがお子さんに説明してくれたり、外国人親子は書かれている日本語をお母さんが母国語に訳し、お子さんに伝えていました。今回の展示が、現状を知ってもらい人間と動物がうまく共存するにはどうすればよいかということを考えるきっかけになってくれたらと願うばかりです。

第3回スキルアップ勉強会 報告

11月23日に第3回スキルアップ勉強会が久末先生と森重さんを講師に行われました。野生動物救護技能の向上を目指す受講生9名とスタッフが参加しました。まずワーキングルームで久末先生による「カロリー計算を含むエサの作り方」の講義がありました。エサを考えるうえで必要なこと、栄養性や安全性・嗜好性の詳しい説明があり、この3要素がバランスよく加味されたうえに経済性が加わったものをより良いエサとするという話がありました。次に野生動物の野生での本来の餌と飼育用のエサの材料のこと、さらにセンターの主なエサの材料や動物の種によるエサの組み合わせについて学びました。最後に野生動物の食事に必要な水分量とカロリー量それに胃の最大容積の計算式が示されました。そして実際にアオサギとツバメのヒナのエサを食物の成分表を見ながら計算し設計してみました。参加者は関数計算に戸惑いながらも熱心に活動していました。参加者の皆さんには野生動物のエサについての基礎的な考え方は十分に伝わったものと思います。



エサの種類を教える森重さん



指導を受けながらキジバトのヒナのエサを作る参加者

次に別館に会場を移して森重さんから現在センターで実際に作っているエサの実物を見ながらの説明がありました。動物の種によるエサの違いだけではなく同じ種でも幼鳥や成鳥それにケガの状況に応じた細かい配慮をしながらのエサ作りに参加者の皆さんは驚いたり感心したりしていました。栄養剤や材料の価格についての質問が出るなどたくさんの質疑応答で熱心に学習を深めていました。



齊藤慶輔先生 神奈川に来る～

特別講演会の裏話

9月21日、伊勢原市民文化会館において、野生動物救護ボランティア講習会修了式に伴う特別講演会（研修会）が、神奈川県自然環境保全センター（以下保全センター）・（公社）神奈川県獣医師会・NPO法人野生動物救護の会（以下救護の会）の3団体共催で開催され、講師として猛禽類医学研究所、代表獣医師の齊藤慶輔先生にお越し頂きました。

講演会について語る前に、まずは齊藤先生を神奈川まで呼びするまでの裏話を。

7月23日から2泊3日で、思いもかけない北海道旅行に出かけることになった救護の会凸凹メンバー4人、最初はただの旅行の予定でしたが…実はその頃、保全センター職員の久末獣医師と頭を悩ませていたのが、今年度のボランティア研修生の修了式後の講演を何方に依頼するかという事でした。

修了式後、野生動物救護ボランティアとして活動を始めるのにあたり、改めて野生動物救護とは何かを考えてもらいたいという思いがあったからです。



猛禽類医学研究所で齊藤先生自ら案内



鳥インフルエンザ検疫用トレーラー



凸凹トリオ
(釧路湿原野生生物保護センター前で)

で、思いつきで北海道まで行く事だし、齊藤先生に聞いてみようかと提案してみた所～保全センター・獣医師会の調整後、GOサイン！

勢い込んで海を渡った私たちを釧路で出迎えてくれたのは、釧路市動物園にお勤めの生駒獣医師（元保全センター非常勤獣医師）。滞在2日目は、朝から乗馬1日コースのトレッキング、馬での山登りは楽しいけどハードな1日に。生駒さんの力添えで夕方に齊藤先生とお会いできることになりました。（神奈川からは、鵜飼獣医師の応援も）

そして猛禽類医学研究所を訪問した私達を、齊藤先生は自ら気軽に施設を案内して下さいました。希少猛禽類（オオワシ・オジロワシ）たちがリハビリ効率を考えられた大きなケージに保護されていたり、デリケートな猛禽（シマフクロウ）のためには、ケージの中に自然の森が再生されていたり、残念ながら放野出来なくなった猛禽たちは、風力発電へのバードストライク防止の研究や手術の際、輸血する役割を持って生きているという終生飼養のあり方などを、一つ一つ丁寧に説明して下さいた齊藤先生の話には、とても感慨深いものがありました。猛禽類医学研究所は釧路湿原野生生物保護センターの一角にあり、建物は環境省が提供されたそうですが、施設中の手術道具・検査器具・検疫用トレーナーなどの設備は齊藤先生自ら揃えられたそうです。見学後、少し時間を頂き、今回の旅行の重要課題である講演会のお願いをしたところ、思いの他すんなり快く了承して頂き責任を果たすことが出来ました。後の細かい詰めは保全センター久末さんに譲り、責任を果たした後は猛禽話に花が咲き、楽しい時間でした。でも後で齊藤先生に聞いた所、私の依頼が必死すぎてとても断れない雰囲気だったとか（笑）

いつもうるさいぐらいに元気なみんなが、やけに大人しいと思っていたら、乗馬で疲れ果てていたそうです。

滞在3日目には、釧路市動物園を見学し、動物園の裏側まで見せていただき動物との接し方、野生とどう向き合うかなど考えさせられることも多く、貴重な体験が出来ました。

滞在中、何から何までお世話下さった生駒さんに、あらためて感謝致します。



釧路市動物園 生駒獣医師にトラのココアが甘えている

その後の開催に向けての細かい段取りは、保全センター久末さんが大活躍。日程・費用・など調整後、講演会場は伊勢原市民文化会館小ホールに決定。広い会場での講演となれば、野生動物救護ボランティアだけに講演を聞いてもらうのは、もったいない。いい機会なので、野生動物に関わっている少しでも多くの人に参加してもらいたいとの思いから講演開催の「チラシ」を救護の会で作製し、大学・動物園・ビジターセンター・動物病院等、関係各所に郵送でお知らせしたところ、効あって多くの方々に聴講して頂く事が出来ました。

続いて本題、

野生動物救護とは

～野生動物救護の理念と目的～

9月21日、早朝に釧路を出られ千歳空港から海を渡り羽田空港へ、運悪く齊藤先生の乗った相鉄線が止まるなどのトラブル発生、（久末さん大慌て！）でもなんとか無事に伊勢原へ到着されました。

14：00から始まった講演は、齊藤先生の日々の体験談に基づき、希少猛禽類の救護活動を中心に多くの写真を交えて紹介しながら野生動物救護とは何かを語り、またその理念と目的という堅い演題をとっても分かりやすく講演されました。野生動物救護に直接関わる人や、あまり関わらない人にも、改めて野生動物救護とは何か、関わるための心構え、今後の活動への活かし方、普及活動の重要性、予備対策の充実など、とても考えさせられる深い内容でした。2時間の講

演は齊藤慶輔ワールドに包まれあっという間の時間になりました。

参加者からは、多くの質問が寄せられ、講演終了後も先生を取り囲み、思い思いに問いかけるなど齊藤先生の乗る最終便の出発時間を気にする主催者泣かせ的一幕もあり、野生動物救護関係者が各自抱えている問題を垣間見る瞬間でした。印象的だったのが、最後に小学生の参加者に快く著者本にサインをされ会話をされていた事、その子は20年後には齊藤先生の意志を継ぐ獣医師になっているかもしれませんね。

齊藤先生の残してくれたメッセージは、いろいろな人々に影響を与え、これから育ち、形として現れる事を期待します。一人一人の力は小さくても、手をつないで大きくして、野生動物やそれらを取り巻く環境を守り、次の世代に健全な自然を引き渡して行けたらと願っています。改めて考えるきっかけを下さった齊藤先生、本当にありがとうございました。

神奈川県自然環境保全センター野生生物課課長
羽太さんと、(公社)神奈川県獣医師会会長
鳥海さんから感想が届いています。

神奈川県自然環境保全センター野生生物課長
羽太 博樹

「私たちは、何を目指して野生動物救護に携わっているのか」、その原点を深く鋭く問いかける講演でした。

野生動物救護は、治して野生復帰させるだけでなく、救護原因の「元栓」を閉める予防対策につなぐことが大切だという指摘が心に刺さりました。

救護される野生動物は、自然界からのメッセンジャーであり、人間活動による自然への負の影響を知る貴重な情報源。その情報を最大限に活かす「環境治療」という提案。その観点に立てば、野生復帰不能個体にも、自然と人間の関わりを伝える親善大使として、あるいは予防技術の開発パートナーとして貢献してもらえる。…いずれのお話も印象に残ります。

また、野生動物が傷つく原因をもたらす事業者との共同研究では、事業者が野生動物を守る直接の動機はないが、救護原因の除去が事業活動に資するという点で事業者にもメリットがあるというお話にも頷かれます。

そして、「野生動物救護というバトンリレーに携わる一人ひとりの気持ちを大切にしなければならぬ」、「その気持ちを、自然環境を守る意識につなげていくには情報発信が大切」というメッセージが強く響きました。

齊藤先生のお話に、「野生動物救護は、実はここまでできるのだ。」と視界が少し開けたと感じます。日々の業務に追われ、ともすると見失いがちな理念と目標を、今一度手繰り寄せ、地道に前進していきたいと思えます。

最後になりますが、お忙しい中、はるばる北海道から神奈川に足を運び、貴重なお話をしてくださった齊藤慶輔先生に心から感謝を申し上げます。





公益社団法人 神奈川県獣医師会会長
鳥海 弘

講演内容は「野生動物救護の理念と目的について」で、主に猛禽類を中心にした講演内容であった。救護の実際とその後のリハビリを通じて、背景にある事故発生要因を検討・分析して予防や対策をどう考えるか・・・実に奥が深く、幅の広い、ストーリーのある内容であったので、小学生から大学生、そしてシニア世代まで多くの受講者は目を輝かせ受講していた。私も昨年2月、札幌での日本獣医師会の年次大会で一部を聴いたが、今回、講義をフルに受講し、その内容に改めて社会にはこういうライフワークをする獣医師がいることに感心をさせられた。

その反面、獣医師の一人として皆さんとは違う視点で興味を持った。獣医師法上、2年に一度提出の義務である22条の届によると、現在国内には獣医師は35,373名おり、そのうち獣医事に従事する者31,105名、従事しないもの4,274名（2010.12.31現在）である。そのうち、個人診療施設は15,259施設であり、産業動物や小動物以外の診療施設はわずか39施設で94名の獣医師が従事しているだけである。そのうち野生動物に従事している獣医師は、この39施設の中のごく一部である。齊藤先生のように野生動物を専門とする獣医師は非常に少ない。愛玩動物や家畜と異なり所有者がいない動物を扱って経営が成り立つのか？ 誰が診療費を払うのか？ 国や地方自治体等から一部の研究助成金や研究費が支給されたとはいえ微々たるものだろう。あれだけの施設、器具器材、薬品や備品、人件費、

光熱費等の維持費は相当かかるはずだ、私も開業獣医師の一人として動物病院を運営しているので、経営の大変さは十分に承知している。講演の中で、環境省から職員としてのオファーがあったが断ったとの話があった。国家公務員だと身分は安定するが、転勤により望まない部署に移動があり野生動物の診療が出来なくなるとのこと。確かにその通りである。この一言を聞いて、凄い信念の持ち主であると改めて感心した。獣医師を志す若者の中には野生動物や自然環境保全に憧れて大学に入ってくる学生は少なくない。しかし、卒業近くになると、やはり一生を考え不確定な進路は選択しないのが常である。そういう意味でも齊藤先生のポリシーには只々感心するところである。

講演会参加者からの感想を一部紹介します。

- ・ 第一に、行動することの大切さを学びました。野生動物救護をする上で、注目してみる点や、今度、その事故をいかにして減らしていくか改善策を見つけて実行していくには、行動するのみだと思いました。

ただただ、知らない事が多すぎて、今回の講演会に出れてとてもよかったと思います。

- ・ 救護と愛護の違いを分かりやすく説明していただき、すっきりしました。救護するだけでなく、

データを取り考え、発信していくことがいかに重要かということに肝に命じ今後の活動に生かしていきたいです。

- ・野生動物救護について再考することが出来ました。事故発生要因をデータにより分析し予防対策（再発防止）を実施することの重要性を認識しました。
- ・野に帰せない傷病鳥獣にも環境治療の為の重要な役割が担っているということが印象的でした。
- ・NHKの「プロフェッショナル」をみて、是非お話を聞いてみたいと思っていたので、とても嬉しかったです。お話もとてもききやすく、その視点がとても勉強になりました。風車による事故の話で、「環境に優しい」の意味を世に言われているものを、うのみにするのではなくしっかり自分で調べて分かっておくべきだと思いました。
- ・齊藤先生にお会いできてとても良かったです。ボランティアに対して考え方が、変わりました。
- ・症例→問題発見→解決に向けての実際の取り組みそれに至った考え方でくわしいお話が聞けたので、とても勉強になりました。現場確認はとても大切な事が分かりました。オオワシの野生の状態、状況が多くの写真で見せて頂けたので良かったです。
- ・今回の講演を聴いて様々な知識を得ることが出来たと同時に動物救護などに関する自分の考えに新しい風を呼び込むことが出来たと思う。様々な美しい写真や動画などをまじえて行う今回の講演はとても聞きやすく記憶に残る印象的なものだった。今回の講演で得た物を頭に入れて今後に生かしたいと思う。



- ・改めて、自分がいかに知らない事があるのかを気づきました。言われないと、気づかない事が多くあることに悲しさを覚えます。今日は、有り難うございました。何かを見つめ続けること、人を変えることの難しさに私も挑戦していきたいと思っています。
- ・ただ”救護する”といっても人間にとっても、動物にとっても住みやすい環境を作って行く、という環境治療という言葉が印象的でした。
自分もこれからも動物救護に関わっていきたくて思いました。
- ・傷病鳥の具体例も多く、充実した時間となりました。どう治すか、だけでなく、ある意味、人でいう法医学的な検証をされて、なぜ事故がおこるかまで調べてアウトプットされているのが印象的でした。貴重なお話、ありがとうございました。
- ・日本では野生動物と環境を切り離して保護をしているところが多いと思います。個体しか見ておらず、どうしてケガをしてしまったのか、原因の改善にまで、いたっていない。しかし先生の取り組みを知って、とても希望が見えました。
- ・希少猛禽類の生息数に対し、傷病救護される数の多さ（比率）にショックを受けた。人間生活と野生動物の接点における種々の軋轢からくる傷病動物の事故を防止するために人知れず多くのデータ収集と努力がされていることに光明を見た思いがする。多くの問題があることもわかった。
- ・環境治療という言葉が深く印象に残りました。先生の熱意に感動しました。

**アンケートに協力して頂いた皆様、
どうもありがとうございました。**

傷病鳥獣保護連絡協議会

12月3日に神奈川県横浜合同庁舎にて平成25年度第1回傷病鳥獣保護連絡協議会(協議会)が行われ、出席してきました。その内容を紹介したいと思います。

はじめに

協議会とは、神奈川県環境農政局 水・緑部 自然環境保全課が取りまとめを行って、年に1～2回開催されます。参加者は、県関係機関(自然環境保全センター・各地域県政総合センター)、横浜・川崎市の各動物園、県・横浜市・川崎市の各獣医師会、NPO法人などなどです。

議題としては、平成24年度傷病鳥獣保護実績についてとその他意見交換などです。

平成24年度傷病鳥獣保護実績

各救護施設での救護件数が月別・保護された市町村別・動物種別・救護原因別などで発表がありました。保護される動物は大体似たような構成になっていますが、海辺の金沢動物園では水鳥が多いなどの特徴がありました。発表されたものの一部ですが、次ページに表を載せますので参考にしてください。

意見交換

出席者からの活動報告、質問、意見交換などを行いました。今回この場で、今年の5月に環境省からオオタカの希少種の指定解除の検討を開始すると発表された事を受けてどのような意見があるのか知りたく、出席者に質問をしてみました。主な意見を紹介します。

- ・地域によって増えているという話と逆に減っているという話を聞く
- ・昔よりは増えているように感じる
- ・単純な生息数の増減だけを議論するのではなく、時系列で地域ごとの繁殖の状況などを把握し、安定して個体数が維持されているかを確認する必要がある
- ・県として、具体的な数や場所は明かせないがオオタカの繁殖が確認されている場所は十数か所あり、その近くで開発などの計画があれば繁殖などに影響が出ないような対策をお願いしている
- ・実際に正確なデータを取るの難しい
- ・現在の状況での指定解除は早いように感じる

などの意見がでました。また、今回出た意見は、オオタカの希少種の指定解除には否定的な立場からのものが多いような印象を受けましたが、個人的には指定解除を妥当とする側の意見も聞いてみたかったな、と思いました。



保全センターで保護されたオオタカ。私が働いていたときは毎年5～6羽ほど保護されていました。

今回、協議会に出席した目的のひとつに、県内のオオタカの状況についていろいろな方の意見を聞いてみたいという事がありました。出てきた意見を自分なりに総括してみると、オオタカの個体数は全体的には増えているが、詳細なデータを取るの難しく、今後も増加傾向が続く確証はないので決して楽観できる状況ではない。ということだと思います。

協議会では、いろいろな方の意見を聞くことができました。この様な場はあまり多くないので貴重な場であったと感じています。今回聞くことができた意見を踏まえ、今後の活動をより良いものにしていきたいと考えています。

平成24年度傷病鳥獣保護実績参考資料

平成24年度救護点数

| 施設名 | 鳥類 | | | 哺乳類 | | | 合計 | | |
|----------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
| | 救護点数 | | 対前年比% | 救護点数 | | 対前年比% | 救護点数 | | 対前年比% |
| | 平成23年度 | 平成24年度 | | 平成23年度 | 平成24年度 | | 平成23年度 | 平成24年度 | |
| 保全センター | 542 | 496 | 91.5 | 91 | 95 | 104.3 | 633 | 591 | 93.3 |
| 野毛山動物園 | 238 | 328 | 137.8 | 41 | 34 | 82.9 | 279 | 362 | 129.7 |
| 金沢動物園 | 248 | 317 | 127.8 | 85 | 93 | 109.4 | 333 | 410 | 123.1 |
| よこはま動物園 | 253 | 259 | 102.3 | 39 | 58 | 148.7 | 292 | 317 | 108.5 |
| 夢見が崎動物公園 | 60 | 83 | 138.3 | 11 | 16 | 145.4 | 71 | 99 | 139.4 |
| 神奈川県獣医師会 | 120 | 184 | 153.3 | 14 | 22 | 157.1 | 134 | 206 | 153.7 |
| 横浜市獣医師会 | 53 | 68 | 128.3 | 6 | 9 | 150 | 59 | 77 | 130.5 |
| 川崎市獣医師会 | 101 | 86 | 85.1 | 1 | 4 | 400 | 102 | 90 | 88.2 |
| 計 | 1615 | 1821 | 112.7 | 288 | 331 | 114.9 | 1903 | 2152 | 113.0 |

救護点数上位10種

| 順位 | 保全センター | | 野毛山動物園 | | 金沢動物園 | | よこはま動物園 | |
|----|---------|----|--------|----|---------|----|---------|----|
| | 種名 | 点数 | 種名 | 点数 | 種名 | 点数 | 種名 | 点数 |
| 1 | ツバメ | 89 | スズメ | 87 | タヌキ | 71 | スズメ | 60 |
| 2 | スズメ | 59 | メジロ | 38 | ツバメ | 38 | ツバメ | 32 |
| 3 | キジバト | 40 | ツバメ | 32 | スズメ | 38 | タヌキ | 28 |
| 4 | ヒヨドリ | 39 | シジュウカラ | 26 | メジロ | 30 | キジバト | 27 |
| 5 | メジロ | 38 | タヌキ | 24 | アオサギ | 25 | カルガモ | 18 |
| 6 | ムクドリ | 28 | キジバト | 23 | トビ | 24 | アブラコウモリ | 15 |
| 7 | タヌキ | 28 | ヒヨドリ | 15 | シジュウカラ | 22 | メジロ | 14 |
| 8 | ゴイサギ | 25 | ドバト | 15 | キジバト | 21 | ムクドリ | 13 |
| 9 | シジュウカラ | 23 | ムクドリ | 14 | アブラコウモリ | 12 | ハクビシン | 12 |
| 10 | アブラコウモリ | 23 | カルガモ | 13 | ウミネコ | 10 | ヒヨドリ | 11 |
| | | | | | ヒヨドリ | 10 | | |

| 順位 | 夢見が崎動物公園 | | 神奈川県獣医師会 | | 横浜市獣医師会 | | 川崎市獣医師会 | |
|----|----------|----|----------|----|---------|----|---------|----|
| | 種名 | 点数 | 種名 | 点数 | 種名 | 点数 | 種名 | 点数 |
| 1 | スズメ | 13 | ツバメ | 32 | スズメ | 24 | スズメ | 20 |
| 2 | ハシブトガラス | 11 | スズメ | 20 | ドバト | 12 | ドバト | 15 |
| 3 | タヌキ | 10 | キジバト | 15 | メジロ | 10 | ヒヨドリ | 10 |
| 4 | ムクドリ | 10 | ムクドリ | 14 | ツバメ | 7 | メジロ | 7 |
| 5 | ツバメ | 6 | ヒヨドリ | 12 | キジバト | 6 | シジュウカラ | 7 |
| 6 | ヒヨドリ | 5 | メジロ | 11 | ハクビシン | 4 | キジバト | 6 |
| 7 | メジロ | 5 | アオバト | 10 | コジュケイ | 3 | アブラコウモリ | 4 |
| 8 | カルガモ | 5 | ドバト | 10 | ムクドリ | 2 | ツバメ | 2 |
| 9 | ドバト | 5 | タヌキ | 9 | ムササビ | 2 | カワラヒワ | 2 |
| 10 | ハクセキレイ | 3 | シジュウカラ | 8 | | | フクロウ | 2 |

～アブラコウモリ飼育記～

《出会い》

2013年7月8日。猛暑の自宅ベランダで、生まれたばかりのアブラコウモリを2匹保護しました。保全センターで、保護されたコウモリの世話をしたことはありますが、生まれたてのは初めて見ます。うろたえましたが、すぐにコウモリの飼育に詳しい救護の会のYさんにSOSを求めました。

Yさんのアドバイスに沿いながら、猫用ミルクを飲ませ、ボール箱に裂いたティッシュや小さいカイロを入れて保温。小さすぎてシリンジやスポイトではうまく飲ませられないので、自宅の動物たちのかかりつけの獣医さんに相談して、プラスチックの針と注射器を分けてもらいました。針先を少し切って紙やすりで尖ったところを削って、刺さらないようにして使用します。しかし1日目はミルクもほとんど飲ませられず、「死んでしまうかも」と不安でした。



保護して数日の「しいたけ」

《ミルクやりの日々》

2匹のコウモリはちょっと体格差があり、同腹なのか関係性はわかりません。小さい方のコウモリはやせていて、体がペラペラで黒い皮膚でキクラゲそっくりなので、「きくらげ」と名前をつけました。1.5グラム。オスです。大きい方はメスでやや肉厚。「しいたけ」と名づけました。体重は2グラム。

3時間から4時間ごとにミルクをやりました。しかし少量すぎて何CCなのかわかりません。

3日目、猫用から小動物用ミルクに切り替えると、ミルクの飲みがグッとよくなりました。体格のいい「しいたけ」は旺盛な食欲で日ごとに毛も生えて、しっかりした成長ぶりを見せてくれましたが、「きくらげ」は食が細くて弱々しい。2匹は1週間たたないうちに倍ほども体格差がついてしまいました。



体格にこんなに差が

10日目までは小動物用のミルクと、時々ヨーグルト少し。1日6～7回やりました。小さい生き物なのに「しいたけ」は食いしん坊でマイペース、「きくらげ」は神経質で慎重派と、個性があるのが不思議でした。



注射器でのミルクやり。中年の目にはツライ作業

《離乳食スタート》

7月17日。プレ離乳食として、ヨーグルトやバナナをなめさせていましたが、「しいたけ」の毛が生えそろう、体重も3グラムを超えたので、ふやかしたドッグフードを乳鉢ですり、ミルクでドロドロにしたものを与え始めました。ミルクと併用して与えます。ミルワームも中身をしばって口元にぬってみましたが、初日はビミョーな反応。しかし2、3日すると好んで食べるようになりました。

7月22日。離乳食に切り替えるタイミングは体重が3グラム程度が目安、とマニュアルにはあったのですが、2.5グラムの「きくらげ」にも離乳食を与えてみました。このころようやく「きくらげ」もまとまった量のミルクが飲めるようになり、おなかにはっきりした「ミルク溜り」ができてきました。

ドッグフードには、栄養強化に鳥のすり餌や小鳥用のビタミン剤を入れました。ブドウムシを食べさせると発育がよくなるとYさんに聞き、与えてみるとおいしく、2匹とも目の色をかえてかぶりついていました。しかし、問題はその後、彼らの本来の主食をどう教えるか、です。



ストレッチ。皮膜が発達してきました



ごはんのあとの「お口ふき」



甘えるような表情の「しいたけ」



ミルクのたまったおなか



指しゃぶりをして寝ている「しいたけ」

《虫を食べさせる》

7月末、光で誘引するタイプの捕虫器を購入。夜、仕掛けて朝、かかったガや、コバエ、ユスリカなどを食べさせることにしました。虫を「半殺し」にしてピンセットでつまんで与えます。しかし、心配していたことが起こりました。「しいたけ」も「きくらげ」も羽虫に対しては口を開けず、食べようとしません。

とにかく格闘あるのみ。コウモリたちには虫に慣れてもらわねば。離乳食に混ぜて、とにかく虫を口に入れて、食べられることを教えようと思いました。まぐれのように飲み込んでくれることもありましたが、多くの羽虫は格闘しているうちにバラバラにちぎれて吐き出されるばかり。時間と労力のかかるエサやりに、コウモリたちも私もグッタリでした。



なんてたってミルワーム



《飛んだ！》

3週間をすぎたころから「きくらげ」が食餌後、さかんに羽ばたいたり、翼を広げてストレッチしたりするようになりました。

8月7日。食餌のあと「しいたけ」が初めてはばたき、数十センチ先にポトンと落ちました。翌日は少し長く羽ばたき、1メートル半くらいの距離をカーブを描いて飛び、壁に取り付きました。しかし、「きくらげ」は羽ばたき練習ばかりで、その後2週間くらい飛びませんでした。

8月14日、部屋の中に蚊帳を吊るし、その中で飛行訓練と食餌をさせることにしました。虫を思うように食べてくれなかったり、飛びたがらなかったりと、このころは「自立したコウモリになれるか」と悩まされる日々でした。



蚊帳の中の飛行訓練 写真は「しいたけ」

《旅立ち》

ベランダに落ちていたコウモリたちですが、自宅から50メートルほどの公園で放しました。公園は林や野球グラウンドやテニスコートがあり、グラウンドの上空や、遊歩道の外灯のまわりでよくコウモリたちが飛んでいます。気がかりなのはテリトリーに入れてもらえるかということです。

8月29日。日没後、「しいたけ」を公園へ連れていきました。「しいたけ」が飛び立つと、そこへ矢の様な速さで大人のコウモリが、目がけたように飛んできました。

「あっ、攻撃しに来た!？」

とひやりとしましたが、大人のコウモリは「しいたけ」のそばをそのまま通過。それに視線をとられた一瞬のうちに、「しいたけ」の姿は見えなくなっていました。なんとか飛んで行ったようです。

9月10日。体重がようやく5.5グラムをこえた「きくらげ」を放野しました。



「きくらげ」 旅立ち間近

9月10日。体重がようやく5.5グラムをこえた「きくらげ」を放野しました。同じ公園に連れて行き、「きくらげ」がブルブル体を震わせて、超音波を出し始めると、まもなく一匹のコウモリがやってきて、私の体をかすめるように通過しました。明らかに、新入りのチェックにきています。コウモリは本当に縄張り意識の高い生き物のようです。驚いたことに「きくらげ」が飛び立つと、大人のコウモリが少し離れたところでいっしょに旋回しました。まるで迎えにきてくれたように。しばらくその場にいると、近くの外灯のまわりを2匹のコウモリと一緒に飛び回っているのが見えました。それが「きくらげ」かどうかはわかりませんが、どうにか彼はこのテリトリーに受け入れられたのだと思うことにしました。周囲のコウモリから、どうにか生きる術を学んでいけていけますように。

手がかかって、気がもめて。でもたくさんの方のことを教わった2ヶ月間でした。



最後の体重測定

徒然 ボランティア日記

その3

季節はいつの間にか秋から冬へと移り変わり、神奈川県自然環境保全センターの動物たちも夏の暑さから解放されてホッと一息ついているようです。そんな保全センターでのボランティア活動の様子を、ユル〜ユルご紹介いたします。

2013年10月〇日(※)

怒涛のような夏の忙しさもひとまず落ち着き、保全センターにも穏やかな空気が流れ始めた今日この頃。保護されている動物たちの数も大分少なくなりました。何故動物の数が減るかって？それは春から夏にかけて運ばれてきた たーくさんの野鳥のヒナたちが成長して野生に帰って行ったから。もちろん骨折などの怪我が原因で生涯保全センターで過ごす事になった子や、残念ながら途中で天に召されてしまった子もたくさんいるけどね(T_T)。そして今日はヒナの時に保護されて無事に大きくなったオナガとスズメの放野をする事に！今回は保全センターの敷地内で離すとの事なので、カメラを構えて大空に羽ばたく瞬間を捉えようと身構える。まず最初にオナガちゃん。鳥かごを開けた瞬間、バサバサッと飛び出しアッと言う間に傷病舎横の桜の大木の枝に留まった。しばらく観察していると枝にいる虫を食べている様な仕草も確認。良かった良かった。あ、懸命に撮った写真はピンボケでした(ToT)。お次はスズメちゃん。「さあ、元気に飛び立って強く生きて行くんだよ」とカゴから出してあげると、何故か飛ばずに目の前をチョンチョンと歩いて移動。嫌な予感がみんなの脳裏をかすめる。「さあ、飛ぶんだ！」と後ろから煽ってみるがやっぱり飛ばない。。。「回収、かな」と職員さんが再捕獲してもう一度ケージの中へ戻され、もう少し飛行訓練をしてから再チャレンジとなりました。まあ、たまにはこんな事もありますよ。

2013年11月△日(※)



草むらではたか
カイツブリ

さて、今日はカルガモとカイツブリの放野に行くと言うので、私も便乗して同行させてもらう事に。厚木市内のとある川に箱に入れたカルガモとカイツブリを連れて移動。最初にカルガモを川岸の水面近くで箱から出してあげると、ポチャンッと勢いよく水に飛び込んだ！「最初から私ココで暮らしてますけど何か？」とでも言っているかのように自然に水面をスイスイと進んで行くのを確認して放野成功。次にカイツブリの箱を開けると自力で箱から飛び出し、岸边で座り込み動かない。すると突然猛ダッシュで走り出したではありませんか！なんで水に入らないで走ってるの？！若干不思議に思いながら少し距離を置いて後を追うと、草むらに座りこんで休憩。しばらく様子を見ていたが一向に川に入る気配がないのでしかたなく捕まえて水に浮かべるとどうでしょう！アッと言う間に潜水して水面から姿を消して何処かに行ってしまう。コチラも放野成功ですね。

2013年11月□日(☁)

今日は午前中野暮用があったので午後から保全センターへ。傷病舎に入ると何やら嗅いだことのある懐かしい臭いが。この甘ったるいような独特の香はもしや…と嫌な予感を胸に秘めつつ B 室の扉を開くとやはり！重症の疥癬症のタヌキさんがいらっやいました。毛はほとんど抜け、皮膚はガビガビに固まり痩せこけたかわいそうなお姿。まさに冬の風物詩、疥癬タヌキ。今年もこの季節がやってきたんだね、と一人時の流れの速さを感じたのでした。なぜ疥癬タヌキが冬の風物詩かって？それは毛が禿げてしまい冬の寒さに耐えられず衰弱して動けなくなっているところを保護されるケースが多いから。これからもっと寒くなると部屋中が疥癬タヌキたちでいっぱいになる事でしょう。そうそう、疥癬は人にも移るのでむやみに近づかない方が無難ですよ。

最後に見た
仔タヌキの姿



2013年11月◆日(※)

前号で紹介した赤ちゃんタヌキ♀ですが、保全センターにお返した後もスクスクと大きくなり、見目麗しい美人タヌキに成長しました。しばらく屋外の広いケージの中で外の環境に慣らし、とうとう10月のある日の夕暮れ時、ソフトリリースされました(ココで言うソフトリリースとはケージの扉を開いた状態にしておいて必要最低限のエサのみを与えつつ動物が自発的に自然に帰っていくのを見守る方法のこと)。野生下であればこの時期に親離れして自立するのが当たり前。秋は山の実りもたくさんあるし、飢えることはないでしょう。律儀にも育ての親を忘れることなく相変わらず私の声を聞くとキュンキュン鳴きながら走り寄ってきて甘えようとする仔タヌキ。すごく嬉しいけどこれではいつまで経っても野生復帰できないではないか。仕方なくしばらく保全センターに行くのを控えました。そして今日久しぶりに行ってみると、最近ほとんど姿を現さなくなったが今朝は久しぶりに近くをウロウロしているとのこと。そして再会。目が合った瞬間やはり尻尾を振って走り寄ってくる。いけないとは知りつつたまたまに身体をなでると少し痩せたようだが毛艶もいいし元気そうで一安心。帰り際、車に乗ろうとする私を見つけた彼女がまた走り寄ってこようとする。車は危ない物なんだよ、と解らせたくて心を鬼にして追い払う素振りをする。一瞬戸惑う素振りを見せ、5メートルほど離れて草陰からこちらをジッと見つめている。「バイバイ」と心の中で言って帰宅。切ない別れとなりました。それから1ヶ月以上、仔タヌキは姿を現していません。無事に野生復帰したのでしょうか。「たぬぼん、元気に生きて行くんだよ！」

足環Project始動!!

足環プロジェクトとは

足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることでその個体の生存年数、移動範囲・距離などを知ることができます。詳しくは「RUNNER」vol.16を御覧下さい。

2013年9月～足環を付けて放された鳥たち

| 足環番号 | 種類 | 放鳥月 | 放鳥場所 |
|------|-------|-----|-------|
| B2 | アオバズク | 9月 | 小田原市 |
| B3 | ウミネコ | 11月 | 平塚市海岸 |
| B4 | カイツブリ | 11月 | 厚木市玉川 |
| B5 | カルガモ | 11月 | 厚木市玉川 |



左足に赤い足環をつけた野鳥を見かけたら、下記まで連絡して下さい。

NPO 法人 野生動物救護の会 TEL 0463-75-1830

e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 野生生物課 TEL 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo> (移転しました)

インフォメーション

勉強会・講演会

- ◆第4回 スキルアップ勉強会「挿し餌」
▽日時:1月中旬(予定)
▽場所:自然環境保全センター
- ◆清水小学校 自然教室
▽日時:1月30日(火) ▽場所:七沢ふれあいセンター
☆小学生向けに野生動物についての講演を行います。

年末年始の保全センターボランティアについて

- ◆自然環境保全センターの冬季休業
▽休業期間 12月28日～1月3日
☆この期間、センター職員は1人体制で午前中だけの出勤になり、動物たちの世話も手薄になりがちです。お忙しい時期とは思いますが、お時間のある方、是非お手伝いをお願いいたします!(*休業期間中はセンターへの電話/FAXも不通となりますので、ご注意ください)

衝突調査

- ◆秦野市立図書館衝突調査
▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は12月27日、2014年1月31日、2月28日
▽場所 秦野市立図書館
☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

“救護の会 ブログ” 始まっています!

- ◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!
日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページの「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧下さい♪
アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。
私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

- ★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)
- ★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)
- ★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方
年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

振込先

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040
名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2013年12月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 表紙:高木茜 活動の現場:平沼亜矢子
齊藤慶輔先生神奈川に来る～:渡辺優子(レイアウト:平沼亜矢子)
傷病鳥獣保護連絡協議会:福富潤 アブラコウモリ飼育記:馬岡洋子(レイアウト:片瀬亜姫)
徒然ボランティア日記:神崎さつき 足環プロジェクト:渡辺優子(レイアウト:高木茜)
インフォメーション:神崎さつき 全体の校正:大村亮太